

福知山市自治基本条例推進委員会(第3回)概要報告

〔日 時〕令和3年7月20日(火)14:00~15:40

〔場 所〕ハピネスふくちやま 女性活動支援ルーム

〔出席者〕委員…7人、事務局…4人、傍聴者…1人

■開会

■庁内の取り組み状況報告、今後の住民自治を推進するための方向

■意見交換「地域活動のこれからについて」

(1)テーマ選定理由・目的

第1回目の推進委員会において出されたテーマから選定。

- ・ 長期化するコロナ禍での活動状況と課題の共有。現状と課題をふまえた上で、今後の地域活動をどう進めていくのか考える。
- ・ コロナ禍での社会活動も2年目となり、情報の一方通行、閉塞感が見受けられるが、情報共有をはかり地域活動をどう図っていくのか考える。

(2)コロナ禍における地域活動の現状とこれから

- ・ 総会など、地域づくりをするための意思決定の場をもつことが困難。
- ・ コロナ禍で会費や補助金といった活動資金をうまく活用できていない。
- ・ コロナで今までのような地域活動ができなくなったことで、活動できることのありがたみと重要さを痛感。
- ・ 子育て支援において、コロナで施設の利用者が減少した一方で、1人1人の相談者と向き合える時間が増えた。
- ・ コロナで地域の集まりができない分、回覧板などの文字情報を図などでわかりやすく、読みやすいように工夫をした。そのほか、地域情報を随時まとめて各戸配布する等、積極的に情報発信するよう努めている。
- ・ オンラインで会議をしようとしても、会議の出席者が高齢だと対応できないことが多い。一方で、若手は対応できるので、オンライン会議を行っている。
- ・ 地域の会合やサロンといった活動を行いたいと思っても、判断が難しい。
⇒ 安心して地域活動が行えるよう、市から一定のガイドラインを示してほしい。

(3)地域活動をすすめる上での情報共有・市民参画

- ・ 市には、地域での取り組みについて、もっと進捗状況などの情報を発信してほしい。コロナの影響で市との協議の場もなく、ますます情報提供の働きかけがしにくくなっている。
- ・ 市が進めている事業や今後の方針について、言える範囲で教えてほしい。

- ・ 行政としては方針をある程度固めてから市民に伝えるとなると、方針が定まっている以上、市民の意見は反映しづらくなる。できるだけ早い段階での情報共有が必要。
- ・ 情報の共有というが、情報は知ろうと思う人しか読まない。または、本当は必要だけど、情報にアクセスできない。これからは、既存のやり方とは違う情報共有のやり方を考えねばならない。
- ・ 地域づくりを行う団体等は、行政が提供した情報を地域におろしていただくだけではなく自ら情報を集め地域から発信していくなど、今までとは違うアプローチが必要。
- ・ 自治会などの地域活動は、参加者が限定されているのが現状。今の担い手だけではなく、他の活動団体とつながることができる情報共有を考えることも必要。

■まとめ

- ・ 市民と行政の情報共有について課題あり。
- ・ 新型コロナをきっかけに地域活動の在り方が大きく変化。従来のような活動ができなくなった一方で、一人一人に寄り添った子育て支援など、コロナ禍中だからこそできた取り組みもあった。
- ・ 長期化するコロナの影響下で、市民が安心して地域活動に取り組むための方針を示すことが必要。

【次回にむけて】

- ・市職員に対して、未成熟な情報の取扱いに対する意識調査を行い、その結果を委員会で共有。
- ・「令和2年度 自治基本条例にかかる取組み調査結果」の内容を検討。